

免疫チェックポイント阻害薬単剤療法による奏功後の増悪に関連する因子についての探索的研究

研究へのご協力をお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加していただき、治療方法や診断方法が有効であるか、あるいは安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

研究の背景

免疫チェックポイント阻害薬は進行・再発非小細胞肺癌に対する薬物療法において標準治療の一つです。進行・再発非小細胞肺癌における奏効率は約20%であり、その一部は長期に奏功を維持するものの、およそ2/3の症例では免疫チェックポイント阻害薬に奏功後に病勢が増悪してしまいます。現在免疫チェックポイント阻害薬は非小細胞肺癌の治療に頻用されているものの、奏功後の増悪と関連する因子や増悪の形態に関する報告が乏しいのが現状です。

本研究について

この研究は、進行・再発非小細胞肺癌に対して京都医療センター呼吸器内科および呼吸器外科で2015年12月から2018年12月までに初めて免疫チェックポイント阻害薬(オプジーボ®、キイトルーダ®、テセントリク®)を投与された患者さんを対象としています。対象となる患者さんの臨床所見、検査データを収集し、免疫チェックポイント阻害薬に奏功後の増悪と関連する因子と、増悪の様式を調査します。過去のデータを収集するため、本研究に参加することで新たに治療・検査が追加されることはありません。

この研究で得られた情報により、免疫チェックポイント阻害薬に奏功後の増悪の有無を予測する因子を探索でき、今後の非小細胞肺癌におけるICI治療に役立つことが期待されます。

研究の参加はあなたの自由意志を尊重します

「この研究への参加をやめたい」と思ったときには、いつでも自由に参加を拒否することができます。

プライバシーの保護について

この研究で得られた情報は、医学雑誌などで公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

お問い合わせ先について

この研究についてわからないことや、聞きたいこと、またなにかご心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく担当医師におたずねください。

また、病気や怪我などで他の治療を受ける時、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している方の個人情報や、研究の知的財産などには、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【お問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 呼吸器内科
〒612-8555
京都府京都市伏見区深草向畑町1-1
TEL: 075-641-9161
研究責任者:呼吸器内科 医師 金井 修